

## 2 全体会 主催者挨拶・来賓祝辞

### ◆主催者挨拶



### ■三遠南信地域連携ビジョン推進会議

#### 会長 浜松市長 鈴木 康友

本日は、第25回三遠南信サミット2017in遠州に、関係省庁、地方公共団体、経済団体、住民団体、大学など三遠南信地域に関係する多くの皆様に、御参加を賜りまして誠にありがとうございます。

前回のサミットから、新たに加盟団体が増えました。長野県の伊那市、辰野町、箕輪町、南箕輪村の4市町村、また伊那商工会議所と伊那市商工会の皆様にも御参加いただくことで、39市町村、51の商工会議所・商工会、3県と、全てで93の構成員となりました。こうして、さらに仲間が増えたことを大変うれしく思っております。

今回、25回目でございますが、平成5年に浜松からスタートしたこのサミットも、9巡目になりました。25回ですから、四半世紀にわたり、こうした連携を積み重ねてきたこととなります。また、平成20年度には、具体的な連携を推進していくために三遠南信地域連携ビジョンを策定し、三遠南信自動車道の整備、リニア中央新幹線の事業、防災の連携、産業における連携、様々な成果を積み重ねてまいりました。そして10年がたった今、新たなビジョンの策定に向けて準備中でございます。第2次三遠南

信地域連携ビジョン策定委員会が、8月からその議論を進めており、本日、この新ビジョン策定に向けた様々な御意見をいただくことになっております。皆様からいただいた御意見をもとに、さらにバージョンアップした新ビジョンの策定を進めてまいりたいと思っております。

さて、この10年を振り返ってみると、随分といろいろな社会的な変化がございました。日本全体が人口減少時代に突入するという衝撃的な増田レポートを皮切りに、地方に大きな影響が出るということで、国を挙げた地方創生の取り組みが始まりました。地方創生は、それぞれの地域、あるいは自治体が、地域の特徴、資源を生かして、知恵を出し、汗もかいて地域を活性化していく取り組みでございますが、それに加えまして、一つ一つの自治体、地域だけではなく、今後は広域で様々な取り組みをしていくことが大変重要になってまいりまして、国もそうした取り組みを大いに後押ししています。私どもははるか前から県境を越えた連携を進めており、以前から注目されていましたが、現在でも非常に特徴的な連携だと注目を浴びているところでございます。ぜひ、これからの地方創生の時代に向け、日本の先駆けとなる県境を越えたこの連携を推進していきたいと思っております。その大もとになるのが新ビジョンであると思っておりますので、本日はキックオフとして、素晴らしい会になりますことを大いに期待したいと思います。

結びに当たりまして、それぞれの参加者の皆様の一層の御理解と御支援、御協力をお願い申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございます。

## ◆来賓祝辞



### ■国土交通省中部地方整備局長

#### 塚原 浩一 氏

本日は、この三遠南信サミットが、大変盛大に開催されることを心よりお喜び申し上げます。三遠南信サミットにお呼びいただくのは2回目なのですが、各地域の首長を始めとして、産官学民を含めた各界のリーダーの方々が一堂に会するということが、大変素晴らしい催しだと改めて思っております。

三遠南信地域は、昔から塩の道、秋葉街道、あるいは天竜川を介して、上中下流、沿岸域まで含めて、様々な形で幅広い連携・交流があったところだと思います。人、物だけではなく、歴史、文化、経済など、様々な交流があったと思います。そういったものをベースにして、現代でも県域を越えたこの地域が一体となって様々な形で地域振興のための連携を図るということは、国全体を見渡してみても、先進的で画期的な取り組みであると私どもも思っております。さらに、これが四半世紀という非常に長きにわたって、大変活発に活動されていて、様々な成果を挙げているということは、大変素晴らしいと思います。いわば、伝統的な交流を、社会情勢の変化を踏まえて現代的に再構築している取り組みだと思います。特にこの地域は、自然環境、産業、歴史的・文化的な資産など、各地域で保有する様々な強みを最大限に生かしていくこと

が、この地域の連携の意義だと思っております。また、その中で、2027年のリニア中央新幹線の開業も見据えて、様々な新しい取り組みが進んでいることだろうと思います。これまでの皆さんの御努力に敬意を表するとともに、この三遠南信地域の取り組みがさらに深化していくことを期待させていただきたいと思っております。

私ども中部地方整備局は、天竜川、豊川などの河川の管理、この地域全体の防災対策、何より三遠南信自動車道の事業を担わせていただいているということで、まさにこの三遠南信地域の取り組みの非常に大きな部分を担わせていただいております。非常に責任が重大だと改めて思っているところでございます。

三遠南信自動車道につきましては、何とか皆さんの御期待に応えられるように一生懸命事業を進めているところであり、今年度は飯喬道路の（仮称）龍江インターチェンジから（仮称）飯田東インターチェンジまでの3.4キロメートルが開通いたします。また、来年度には、佐久間・三遠道路の（仮称）佐久間インターチェンジから（仮称）東栄インターチェンジまでの6.9キロメートルが開通の見込みとなっております。そのほかにも、天龍峡大橋や青崩峠のトンネルの工事、佐久間と水窪の間のこれから事業化していく区間の環境アセスメントの手続など、一生懸命進めている状況でございますし、現道改良区間につきましては、長野県、浜松市に一生懸命頑張っているということで、着々と成果を挙げさせていただいております。

また、天竜川、豊川の治水対策につきましても、ダム事業、河川事業、砂防事業など、着実に進めているところです。我々の取り組みが、この三遠南信地域の取り組みに大きく貢献できることを念頭に置いて、一生懸命頑張っているところでございます

ので、御出席の皆さんには、私どもの取り組みにつきまして、引き続き御支援、御協力をいただければありがたいと思います。

本日は、このサミットの成功を祈念いたしまして、また、この三遠南信地域のますますの御発展を祈念いたしまして、御挨拶にかえさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。



■農林水産省関東農政局次長 米田 博次 氏

本日は、三遠南信サミットにお招きいただきまして、本当にありがとうございます。主催者の三遠南信地域連携ビジョン推進会議関係者の皆様方、このサミットが盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。また、御臨席の皆様方におかれましては、平素より農林水産行政の推進に格別の御配慮を賜っております。本当にありがとうございます。今回で25回目と伺っていますこのサミットで、県境を越えた地域の皆様一堂に会し、文化、歴史、産業振興等の取り組みを継続していらっしゃることに敬意を表する次第です。

さて、農林水産省におきましては、「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づきまして、農地中間管理機構の活用による農地の集積・集約、農業委員会の改革、米政策改革、農林水産物の輸出等、様々な改革に取り組んでまいりました。昨年11月に、「農業競争力強化プログラム」を取りまとめまして、農業者の努力だけでは解決でき

ない構造的な問題を解決して、農業者の方々が自由に経営できる環境を整備するために、例えば生産資材価格の引き下げや、流通・加工構造の改革、土地改良制度の見直し、収入保険制度の導入などの取り組みを進めているところでございます。

我が国では、今、人口減少社会への対応も課題となっておりますが、世界に目を転じてみますと、人口は増加の一途をたどっており、世界の農産物市場は今後とも非常に拡大する可能性があると考えております。この三遠南信地域は、国内有数の農業産出額を誇る産地を抱えており、また連携して商談会を開催するなど、輸出にも積極的に取り組んでおられると伺っておりまして、非常に心強く思っております。

私どもとしましても、ユネスコの無形文化遺産への和食の登録、2020年の東京でのオリンピック・パラリンピックの開催などを好機と捉えて、関係機関と連携し、訪日観光客の受け入れを促進してまいりたいと思っております。農山漁村への滞在型旅行である農泊等を通じて、この三遠南信地域の自然豊かな素晴らしい景観や日本ならではの生活形態など地域の魅力を発信し、「人、もの、情報」が活発に行き来する取り組みを進めてまいりたいと考えているところです。

ここ浜松市を見ても、三方原台地は近隣に天竜川、あるいは浜名湖といった豊富な水資源があるにもかかわらず、高台まで水を供給する手段がなく、以前は慢性的な水不足に悩まされてきましたが、土地改良事業により台地にまで農業用水が供給され、現在ではガーベラやミカン、馬鈴薯、お茶等の一大産地となっており、その多くは日本全国においても高いシェアを占めております。また、浜松市はウナギを始めとした水産物、あるいは天竜区を中心とした杉などの木材の生産地域でもあります。これら

のブランド力を生かした地域活性化に大変期待するところでして、今後とも地域の農林水産業の振興を全力で後押ししたいと考えております。

今回のサミットのテーマは、「250万流域都市圏の自立への喚起～新ビジョン策定に向けて～」だと伺っております。このビジョンの実現に向けて、関係する皆様方が意見を交えるということをごさいます、このサミットが有意義なものとなり、三遠南信地域のさらなる発展につながることを心より祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。本日は、本当におめでとうございます。



**■ 経済産業省関東経済産業局  
地域経済部長 三浦 裕幸 氏**

本来であれば局長の後藤が出席して一言御挨拶申し上げるべきところですが、どうしても抜けられない公務がございまして、本日は私が代理で参った次第でございます。

まず、こうして場内をずっと見渡しますと、たくさんの方々がこの場に集まっていたり、まさにこの地域のポテンシャルの高さ、25年間取り組んでこられた成果を示すものと存じます。改めて関係者の方々の御尽力に敬意を表しますとともに、ますますの御発展を願ってやまないわけでございます。

さて、我が国は少子高齢化や人口減少な

どの課題を抱えております。これらは、一部の人たちが一朝一夕で取り組んで解決できるものではなく、私どものこの社会のあり方、生活スタイルそのものを根本的に見直して変革を促していかなければ解決できない課題です。この課題解決に向けて、政府の中では様々なビジョンを策定し、一つの省庁にとどまらず、全ての省庁が一丸となって取り組んでいくことになっておりますし、経済界の方々、地方自治体の方々も、IoTやAIといったテクノロジーを使って、この課題を何とか乗り越えるためにはどうしたらいいかということ日々考えながら取り組んでいらっしゃるかと存じます。

その中で、この三遠南信地域では、次のフェーズに入る新ビジョンの策定に取り組んでいらっしゃるかと伺っており、大変素晴らしいことと存じます。10年後、20年後、この地域をどのような姿にしていくのか、ぜひ未来に向けた夢のあるビジョンを皆様方で作成して、それを実行して未来を切り開いていくことを御期待申し上げます。

私ども経済産業省の関連するところでは、今年7月に地域未来投資促進法が施行されました。これは、自治体や企業の方々が連携して未来につながる投資を行う場合に、減税措置や財政面、人材面での支援を行うものです。微力ではございますが、私どももこの地域の未来に向けて、何か御一緒にできることがあればと考えてございます。

結びになりますが、本日お集まりの皆様方のますますの御発展と、このサミットが大きく成長することを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。



### ■静岡県副知事 吉林 章仁 氏

本日は、第25回三遠南信サミット2017in遠州が、このように多くの皆様にお集まりいただきまして開催されますことを、心からお喜び申し上げます。また、日頃から県政の推進につきましましては、皆様方には大変お世話になっており、この場をお借りして厚く御礼を申し上げる次第でございます。

私は、浜松市天竜区出身でありますことから、三遠南信地域は昔から親しみが大変強い地域であり、歴史的にも文化的にも、あるいは交通的にも、大変結びつきが強いことを小さいときから実感をしているところでございます。

平成24年4月に新東名高速道路の静岡県内区間162キロメートルが一気に開通し、その後、平成28年2月に浜松いなさジャンクションと豊田東ジャンクション間が開通いたしましたので、愛知県と静岡県が、東名高速道路と新東名高速道路の2本の高規格幹線道路でつながり、大変ポテンシャルの高い地域になりました。

静岡県といたしましては、新東名高速道路が開通しましたことを捉えまして、「『内陸のフロンティア』を拓く取組」を始めております。新東名高速道路を背骨に例え、東日本大震災で被害の大きかった沿岸部を防災上どのようにネットワークで支援するか、中山間地域をどのように生かすかということで、内陸・高台部のイノベーションと、沿岸・都市部のリノベーション、

多層的な地域連携軸の形成、この三つを中心に内陸フロンティアを推進してまいりました。おかげさまで、県内35市町の全てでプロジェクトを立ち上げていただきまして、現在84の事業が展開されております。例えば、広域物流拠点、農業・観光の関連施設、職住近接の地域づくりなどが84の区域で進められております。具体化されたものもございますし、現在進行形のものもございますけれども、これを県全体で推進してまいりたいと考えております。さらに、今後は長野県、愛知県、神奈川県と連携いたしまして、近県、隣県にもネットワークを組んでいきたいと考えております。三遠南信地域の連携につきましましては、その中での核としても期待をしているところでございます。

また当地域において、県ではフォトンバレープロジェクトを随分前から進めております。東三河地域とは光分野でも、農業分野でも非常に強い結びつきがあり、産業関係の連携でもポテンシャルの高い地域でございます。

それから、今年NHKの大河ドラマで放送されております井伊直虎は浜松市の出身でございますが、番組を見ますと、三遠南信地域にも舞台が広がってきていると感じております。そういった意味でも、今、非常に良い時期が来ているのではないかと考えております。新しいビジョンを策定されるということでございますので、これまでの蓄積と環境の変化を踏まえた新しいビジョンができて上がることを、県としてもぜひ応援したいと思っております。

また、長野県の太田副知事とは私が経済産業部長を務めていた頃から親交がございます。それから昨年、愛知県の東三河担当の石原副知事が静岡県庁においでいただき、私も今年5月に東三河総合庁舎を訪問いたしました。知事同士は当然でございますが、

副知事同士も顔の見える関係でございますので、このプロジェクトがうまくいくように御支援申し上げたいと考えております。

結びに当たりまして、本日のサミットが新しいビジョンの展開に大いに役立つことを期待申し上げまして、お祝いの挨拶いたします。本日は、誠におめでとうございます。